

塩谷都市医師会だより

Contents

平成21年度第2回役員会
塩谷都市医師会学術講演会報告
シリーズ「塩谷医療史」第1回

社団法人 塩谷都市医師会
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

平成21年度第2回役員会報告



平成21年9月7日(月)午後6時30分よりさくら市氏家保健センター医師会事務室にて開催された。会に先立って、10月に新規開業予定で新入会員の花塚和伸先生(さくら市)の自己紹介があった。

出席者：尾形会長・山田副会長・阿久津副会長・西・後藤・軽部・佐野・岡・半田・手塚本間・尾形新・大和田・池田監事・越井監事江口・糸川事務長

■議題 救急医療体制の構築について

担当の阿久津副会長から報告された。

現在、塩谷地区の1次救急医療は、休日昼間は2市2町の在宅休日当番医制で対応、休日夜間(18:30~21:30)は「こども診療室(しおや・くろす)」が交互に診療しており、平日準夜帯と平日・休日深夜帯は対応できていない。先日矢板市で開催された医師会のシンポジウムでも時間外の1次救急医療に開業医が積極的に関与していくべきとの意見が出され、これまでの協議も踏まえて「こど

も診療室」と同じオープン方式の急患センターの可能性について話し合われた。

オープン形式については、広域行政、塩谷病院、黒須病院とも場所等の提供が可能であることが示された。白熱した協議の結果、マンパワーや継続性に鑑み、まず平日夜間の週一回でも医師会主導で一次救急が可能か検討することになった。

また2次救急医療については、国際医療福祉大塩谷病院の江口病院長と黒須病院の手塚院長代行から現状について報告された。

■議題 新型インフルエンザ対応について

感染症担当の軽部理事から栃木県、県北の新型インフルエンザ流行の状況、法律施行規則の変更(届け出基準や方法等の変更)、予防接種の見込みなどについて報告された。

各理事から今後の対応等について意見が出された。

■議題 各種委員会報告

(1) 保険委員会(大和田理事)

レセプトオンライン化などについて報告があり、納得できない査定は連絡してほしい旨が告げられた。

(2) 研修委員会(岡理事)

原則として月の第3週目の火曜日に学術講演会が行われること。今後10月20日、11月17日、来年2月9日に講演会が行われることが報告された。

塩谷都市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp 尾形新一郎 ogata@o-ga-ta.or.jp	糸川 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

(3) 産業医委員会 (阿久津副会長)

今後の産業医講習会の予定(10月8日、10月22日)が告げられた。

(4) 介護保険委員会 (後藤理事)

介護保険審査の方法が変更され、介護度が低く出る問題点が改善される予定とのことと、主治医意見書講習会について報告があった。

(5) 裁定委員会 (本間理事)

特に報告事項はなし。

(6) 塩谷郡市医師会史編纂委員会 (岡理事)

医師会史の続編に向けて明治・大正時代の資料が少しずつ集まっていることが報告された。

(7) 広報委員会 (岡理事)

「医師会だより」が前号から印刷所で印刷しており、紙質が良くなったことと表紙を配布したこと、医師会のホームページにもアップされ、一般の方にも読んでもらえるようになったことが報告された。

「健康かわら版」は2～3ヶ月に1回発行して、当番医の周知と医師会のイベントの広報に役だっている。また、2市2町の広報に連載中の「養生のススメ」も継続していくことが報告された。

(8) 会館建設検討委員会 (山田副会長)

特に報告事項なし。

(9) 医療機能分化推進委員会 (阿久津副会長)

医療連携体制推進事業として脳卒中の地域医療連携クリティカルパス普及推進事業を行っており、すでに行政、介護、急性期病院、医師会のメンバーで協議会の設立が行われた。来る10月22日(木)には医師会会員向けに研修会を開催することが報告された。また、12月、2月に症例検討会も予定しているとのこと。

議題 その他の議題

9月27日に行われる県医師会の代議員会について取り上げられた。

学術講演会報告

テーマ「ASOにおける連携医療と血管新生治療について」

日時：平成21年7月21日(火)19時

講師 獨協医大循環器内科 小林直彦先生

ASO(閉塞性動脈硬化症)は高齢化の進展とともに増加傾向にある。喫煙、糖尿病、高脂血症、肥満などがリスクファクターである。症状が進展すると下肢の切断にまで至る重い病気です。予後も悪い。小林先生は下肢を救う(救肢)ことを目的としたチーム医療を行うために獨協医大に「足療(あしゆ)の会」を発足させ、ASOの治療に取り組んでいる。ASOはABI(下肢血圧と上肢血圧の比)やレーザードプラー法による血流モニタリングで診断されるため、なるべく早くFontaine分類(ASOの重症度分類) 度(跛行が認められる)の状態の時に紹介してくれたほうが治療法の選択肢が多いとのこと。

獨協医大循環器教室では2005年から最先端医療として末梢血単核球細胞を用いた血管再生治療を行って良い成績をあげており、さらに虚血性心疾患についても細胞移植や遺伝子導入による再生医療や遺伝子治療の臨床応用にむけて研究が進んでいるそうである。

講演後は会場から多くの質問があり、小林先生の救肢にかける情熱が伝わった講演会であった。



事務局からのお知らせ

平成 21 年度下半期予定

- 10月8日(木) 産業医研修会
20日(火) 学術講演会「ピロリ菌関連」
22日(木) 医療連携体制推進事業研修会
- 11月8日(日) 市民公開講座
「運動習慣で一病息災」
矢板市文化会館大ホール
- 11月17日(火) 学術講演会
「ヒューマンエラー」
- 12月 医療連携体制推進事業症例
検討会予定

広報委員会からのお願い

広報委員会では 2~3 か月に 1 回の割合で休日当番医の情報を載せた「健康かわら版」を発行しております。各医療機関におきましては、窓口での個別配布や待合室設置など、なるべく多くの方への配布をお願いします。なお、不足の場合は医師会までご連絡ください。次号の発行は 10 月 1 日です。

また、「養生のススメ」の原稿を書いてくださる会員の先生は医師会事務局までご連絡ください。

第 5 回市民講座講座について

来る 11 月 8 日(日)午後 1 時から矢板市文化会館大ホールにて開催します。

「運動習慣で一病息災」という演題で、糖尿病の第一人者でテレビの健康番組にも出演している河盛隆造先生をお招きしました。

ポスター、チラシをお送りしますので多くの方にお知らせ頂きますようお願いいたします。



シンポジウム報告書完成

去る 7 月 11 日(土)矢板市文化会館において行われた塩谷郡市医師会主催の地域医療シンポジウム「救急医療の現状と展望」の報告書がこのほど完成しました。

報告書は A4 版 32 ページで、各シンポジストの発表内容と討論会、参加者のアンケートの集計などが載っています。1500 部作成され、医師会会員、医療機関、2 市 2 町、広域行政などに配布され、残りは 11 月 8 日(日)に矢板市で行われる市民公開講座で参加者に配布される予定です。



新入会員紹介

花塚 和伸 (平成 21 年 10 月 1 日入会)

さくら市喜連川に開業させて頂くこととなりました。喜連川に生まれ、喜連川に育ちました。大田原高校卒、平成 3 年に昭和大学卒業、同年自治医大内科レジデントを経て、自治医大附属病院消化器内科に入局しました。以後県南総合病院、茨城県中央病院・地域がんセンター、宇都宮社会保険病院等に勤務し、昨年 4 月よりは近隣病院の内視鏡検査、治療に携わってきました。

趣味は、星を眺めること、野鳥や風景の写真撮影、キャンプ、オートバイのツーリング。

若輩者であり、ご迷惑をおかけしますが、諸先輩方のご指導の下に早く地域医療の一端を担えるよう頑張ってお参りたいと思っておりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

シリーズ 塩谷医療史 -1-

西垣勝熊 会長（矢板）

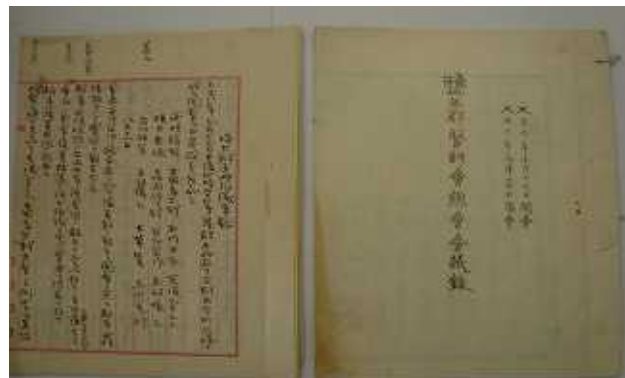
塩谷医療史研究会代表 岡 一雄

塩谷町で江戸末期から明治にかけて医療を営んでいた青木マサイ家の膨大な古文書がさくら市氏家町史編纂室に保管されている。それらの資料を研究するとともに塩谷地区の医療史を明らかにするために塩谷医療史研究会が発足した。メンバーは医師会から戸村先生と私が参加し、郷土史家で栃木県近代史の専門家である大嶽浩良先生、神山壮先生、氏家町史編纂室の小竹弘則氏、池田知美氏、上野静枝氏の7名である。研究会は1月から3月までは毎週、4月からは月に1~2回のペースで水曜日午後開催、現在も継続している。今回から医師会だよりの紙面を借りてその成果を少しずつ発表していきたいと考えている。

第1回は矢板市の医師、西垣勝熊を取り上げる。平成15年11月に発行された「塩谷郡市医師会史」は「- 新生医師会半世紀の歩み -」というサブタイトルが付けられていた。戦後GHQの指導により、医師会も新たな組織として発足しなければならなくなり、会長は氏家町の小林義雄が務めることになった。その経緯は前出の医師会史71ページに詳しいが、それ以前に会長を務めていたのが矢板市の西垣勝熊である。医師会史発行の時点では西垣勝熊について詳しい資料が入手できず簡単な略歴の記載しかできなかった。

研究会は西垣勝熊の診療所跡の管理を任されている大草武氏から貴重な資料を得ることができた。その資料と研究会の調査によると、西垣勝熊は明治9年熊本生まれ、医術開業試験に合格後、明治42年前後から矢板で開業。明治43年に塩谷郡医師会幹事（黒須充子家文書）大正8年同会計、大正9年同理事（下野新聞）大正14年笹沼栄作塩谷郡医師会長（喜連川）の死去後に会長に就任したと考えられ、戦後の昭和22年小林会長

と交代するまで会長の職にあった。昭和27年2月18日死去。葬儀の案内には殉職と書いてあるが、患者から何らかの感染症を移されて死亡したのかもしれない。 **大正8年議事録**



西垣家関連の資料の中に大正8年3月15日の医師会議事録と翌9年3月17日の塩谷郡医師会総会会議録が含まれている。大正8年の議事録によると、会議は氏家町役場で開催され、現在の医師会総会と同じように役員改選、前年度の収支支出決算報告と次年度の予算の審議がなされている。また、議題として「トラホーム患者治療費一定の件」「橋本医師無届、会費未納の件」「五味淵医師予防接種の件」が取り上げられている。（注：大正8年3月27日の帝国議会で「トラホーム予防法」が成立する10日前である。）

大正9年の議事録は当時の会員数が44名だったことがわかり、会員全員の名前が記載されており当時の医師を知るのに有用である。この会議では勅令429号により従来の医師会が自然消滅し、新たな医師会が財産を継承する形で成立することが説明されている。大正8年4月10日医師法（明治39年制定）の第三次改正が行われ、従来医師会の設立が任意であったものが、郡市医師会および道府県医師会が強制設立となり、その内部組織も勅令で規制されることになった。その医師法改正に基づいて出されたのが医師会令（勅令429号、大正8年9月25日）である。さらに大正12年の第四次改正で日本医師会が発足する。この二つの議事録は医師会の大きな分岐点となる当時の様子をよく伝えてくれる資料である。